

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その37

文：故 渡部 彬久 よしひさ

オサイ神社

上小島にある観音堂の西側にオサイ神様が祀られています。観音様の縁日である8月17日には毎年如法寺の和尚さんがお経を上げ供養しており、村の人たちはお産の神様としてお参りしています。

次のような縁起が伝えられています。大昔、近郷の庄屋のもとにオサイという子供が里子として引き取られました。オサイは日に日に可愛い娘に育ち、年頃になったオサイを見て、若者たちは「嫁に迎えたい」と望むものが少なくありませんでした。あるときオサイは父無し子を身ごもってしまいました。悩んだ挙句、自分で始末しようと考え、毎日のように近くの小川に行き、冷たい水に腰まで浸かりました。このことがもとで、オサイは病気になり、身ごもったまま死んでしまいました。可哀そうに思った庄屋は、オサイから子どもを産ませないで埋葬しました。ところがその後、小川の近くの道に夜な夜なオサイが子どもを抱いて現れ、道を通る人々に「どうかこの子を抱いてやってください」と申すので、人々は怖くなり逃げるようにその場から離れました。「オサイが子どもを抱いて化けて出る」という話を聞いた寺の和尚さんは、



↑オサイが祀られている祠

オサイの霊を寺に連れて帰り、読経して成仏させました。その後はオサイの霊も現れなかったと伝えられています。

ある夜、オサイが和尚の枕元に立ち、「これで私は成仏できます。ありがとうございます。これからはお産で亡くなる人が出ないように、私が守ります」と告げたので、和尚は境内にオサイを祀ったと伝えられています。



今月の表紙

JR尾登駅の近くにある菜の花畑とそのすぐ脇を走る磐越西線。なかなか構図が難しいです。西会津にも新緑の季節がやってきますね。

編集後記

今年度の人事異動により、新たに広報紙を担当することになりました。記事を書くことも写真を撮ることも全くの初心者ですが、気軽に読んでいただける広報紙を目指して一生懸命頑張ります！

全国各地では新型コロナウイルスの影響で、イベントの中止・延期や、外出の自粛など窮屈な日々が続いていますね。町内でも色々なイベントが中止になっており、広報紙の担当としても頭を悩ませています。少しでも明るい話題を届けられるよう、アンテナを高くして来月号の作成も頑張ります！一年間よろしくお願ひします。

情報政策係 秦 渉 吾